

総合学科における《商業デザイン》

「商業技術」における商業デザイン分野の指導方法

全国高等学校デザイン選手権大会への挑戦

商業科 手塚 雅之

1. 本校における「商業デザイン」の現状

本校において「商業デザイン」は2・3年次生選択科目として開講している。本年度の選択者人数 名、教員3名で授業を展開している。商業科目は、総合科学科開設以来の開講しており、選択者人数は、下記の通りである。当初は、教員1名で対応していたが、科目の内容から平成9年度より3名体制で授業を展開している。「商業デザイン」は、マーケティングとともに昭和31年から商業教育に取り入れられている。昭和31年当初は、名称も「商業美術」となって、現在の名称は、昭和53年からである。今回の高等学校学習指導要領の改善において「商業技術」となり「商業デザイン」は整理統合される。そこで、本校での「商業デザイン」の取り組みと「商業技術」におけるデザイン分野指導内容を公開する。

2. 全国高等学校デザイン選手権大会について

(1) 応募要項

本校においては平成9年度より「商業デザイン」の選択者に全国高等学校デザイン選手権に作品を応募している。本大会は、美術表現のテクニックだけで優劣を競う場ではなく、何を取り組むべき課題として発見するか…。それをどうとらえ、探求するか…。そして、いかに画期的な解決策を考え出し、その一連の内容をしっかりと伝達できるか…。を問う大会です。「明日の社会・明日の暮らしをデザインする」をテーマとし高校生の視点で、社会や暮らしの問題点を見つけ出し、その解決策をビジュアルな表現を用いて分かりやすく提案するものである。

(2) 実施の概略

全国の高等学校生徒から応募された作品を審査（一次審査）し、入賞12点（チーム）、入選30点（チーム）を選びます。

入賞した12チームは、最終審査会（決勝大会）において、7分公開プレゼンテーション（チームによる口頭発表）という方法で、作品の具体的な提案・説明を

行い、問題発見能力、着眼点、分析力、発表訴求力、チームワークなどのデザイン力を競います。

(3) 本校生徒の出品状況

「商業デザイン」選択者12チームが全国高等学校デザイン選手権へ出品した。本年度の作品のタイトルは、次のような分野の作品に分けることができる。a. 福祉 b. 環境 c. 健康 d. 生活に分けることができた。そこで、いくつかの生徒の作品のコンセプトは次のとおりである。

①正しいゴミの使い方（男女混合）

「ゴミが増えたら捨てればいい」と思っている人は、今の世の中には少なくないのではないのでしょうか。しかし、ゴミの出し方を少し手間をかければそのゴミが燃料となり地球の資源にゆとりができたりするのです。

そこで、有効な手段だと思われるゴミ発電に観点を置き、なぜあまり世に知られていないのか、現状の規模の小ささを考えました。

②愛FULLホーム

現代において、広い家のそうじをしたり、すみずみまで管理する事による母親の負担、また家族の一人一人が声を交わす機会すらないということは、問題となりつつあります。そんな現代において、それらの問題を一台で解決する事のできるのがこのマシンです。

見かけは普通のアタッシュケースでももちろん普通に使えますが、スイッチを押すと家のホログラムが現れ、家の全てを指一本で管理でき、防犯対策もバッチリ。

また、遠い家族ともディスプレイを通して会うことができます。この商品の登場によって、より暮らしやすくゆとりある生活、また離ればなれの家族を物理的にも、感情的にもより近いものとすることができます。

③散歩気分。～気分は良好～

気軽に外に出て散歩の気分を感じて欲しいと思う

てこのタイトルにしました。私達が今まで生活してきた道路や街が障害者にとっては、少しの段差や私達の気づかないことでも不便に感じられている。

実際障害者の立場で外に出てみると、不便な点が次々と浮かび上がってきた。そこで、障害者の人たちが快適にそして安全に外に出られるためには、何を改善しそして何が必要なのかを考えてみました。

3. 本校における「商業技術」の展開方法

前期では「商業デザイン」の学習項目であるデザインの基礎を学習した後に、今年度、全国高等学校デザイン選手権大会の作品の製作を行い、後期において商業文書の学習を進める予定である。「商業技術」においてもこのようなグループ活動の作品製作は、必要になってくると考えられる。商業という教科の中で作品という物を作り上げる科目は「商業デザイン」のみである。総合学科においても異学年学習を行う上でもこのデザイン選手権大会の出品は成果が上がっている。今の高校生に創造力養う上にも非常に効果があるのではないかな。私達、大人では思い浮かばないような興味のあるテーマを生徒自身で考えつくことである。知識伝達の授業ではなく生きる力の育成にも役立つと考えられる。

4. 全国高等学校デザイン選手権大会に出場して

大会に参加していつも思うことであるが、出場校のレベルの高さである。本校も2年連続出場となったが、他の出場校に追いつくまで大変な努力が必要である。他校の場合、部活等でかなりの時間を費やして参加をしていく。また、学科も建築科・デザイン科などの専門学科の生徒が多い。ただ言えることは、総合学科だからこそユニークなアイデアが出るのではないかなと思われる。プレゼンテーションにしても審査員からユニークであると高い評価を受けた。参加をした生徒の成長が目に見えるようである。たった4日の大会であるが、生徒の目が変わっていく様子うかがえる。その参加した生徒の感想である。生徒もそうであるが教員自身も勉強させられる大会である。製作時間6ヶ月の作品である。生徒を引率していく以上入賞させたいと毎回のように思う。来年は、このテーマで行くぞと毎回思うのであるが、なかなかそういうテーマは一次審査を通過しない。教員の頭では浮かばない柔軟なテーマが全国大会に出場できるである。来年に向けて頑張りたいと思います。

【生徒A】

全国大会に行けるなんて本当に、豆粒ひとつ思わなかったもので、知らせを聞いた時は、目が飛び出るほど驚きました。

なにしろ、初めてのことなので、何から何まで不安でした。けれどひとつひとつの出来事が新鮮で私の心は、潤ってきました。みなさんの発表はすごかったです。いろんな人がいて、いろいろなものを見ていろいろな体験をして世の中楽しいなと思いました。

【生徒B】

あの絵の事は、すっかり忘れていました。だから全国大会に行くなんて驚かされました。驚きを越えた状態でした。しばらくの間何も考えることすら出来ませんでした。それからやっと他の事が考えるようになってから自分とはとんでもない状況にいることがわかりました。そして今回、全国大会に参加してみて全国のレベルを見せつけられました。だから今回のとんでもない状況は私にはとても勉強になりました。

【生徒C】

実際に公開プレゼンテーションに参加してみて他の学校のプレゼンテーションの内容の濃さ、工夫には関心するばかりでした。いろんな角度からのものの見方や考え方をすることで自分の視野をずっと広がった気がします。自分たちのプレゼンテーションには反省する点はたくさんあったけれど3人で考えたプレゼンテーションは自分達らしく後悔はありません。デザイン選手権に参加できたことは、自分にとってとても大きな経験、そしていい思い出になりました。

調査の調査(1)

一) 審査員はどのような基準で審査したのか
二) 審査員は「人」(ムービー)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
三) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
四) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
五) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
六) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
七) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
八) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
九) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか
十) 審査員は「人」(審査員)と「人」(審査員)のどちらを重視したのか